

令和6年度
「県南地域づくりキャンパス事業」 報告

神奈川大学 建築学部 曾我部研究室

報告者：神奈川大学建築学部 曾我部研究室 助手 秋山晃士

目次

1.事業目的と参加実績	2
2.フィールドワーク・実施報告	3
「美波町門前町再生交流オフィス」の改修工事計画・改修後活用	
概要	4
既存の状況と図面	5
改修計画の検討	8
改修工事中的見える化	13
解体作業の概要	14
改修工事の概要	15
改修後活用の実施	16
改修後活用の見える化	17
3.展覧会でのアンケート調査	21
4.事業目的の達成状況	24
5.学生の意見調査	26

事業目的

- ・ 本研究室では、美波町桜町通りに建つ古民家を改修する計画を進めている。
- ・ 単なる改修に留めず、かつてこの地域で送られていた暮らしの様子を思い出させるような内外装とすることで、より深い地域活性化に繋がると考えている。
- ・ 学生たちと地域内外の人たちが協働して進めることで、関係者が多様化し、関係人口の拡大も期待できる。

参加実績

フィールドワーク実施期間：2024年10月7日～2025年2月24日

参加者延べ人数

学生：216人

学生以外（地域住民等）：248人

フィールドワーク・実施報告

「美波町門前町再生交流オフィス」の改修工事計画・改修後活用

「美波町門前町再生交流オフィス」の改修工事計画・改修後活用

【概要】

本建物は、大正14年に遍路宿として建設され、昭和51年に南側部分が建て替えられた。その後、空き家となったため、役場が管理を行い、「美波町門前町再生交流オフィス」として、「日和佐 発心の会」などの活動拠点として活用していた。令和6年（2024年）に、竣工から100年を迎えた。

今回の改修においては、1階部分では、かつての土間を復元するとともにその範囲を拡張し、より広い空間を確保した。また、2階部分では、既存の仕切りを撤去し、吹き抜けを設けることで開放的な空間を創出した。用途としては、地域活動の交流拠点としての機能を強化し、地域の活動者や学生が宿泊できる空間を整備する計画とした。

建物概要

- ・住所 : 徳島県美波町海部郡美波町奥河内寺前 228
- ・用途地域 : 近隣商業地域
- ・建蔽率 : 80%
- ・容積率 : 300%
- ・敷地面積 : 120.748㎡
- ・構造 : 木造
- ・規模 : 地上 2 階建
- ・建築面積 : 90.771㎡

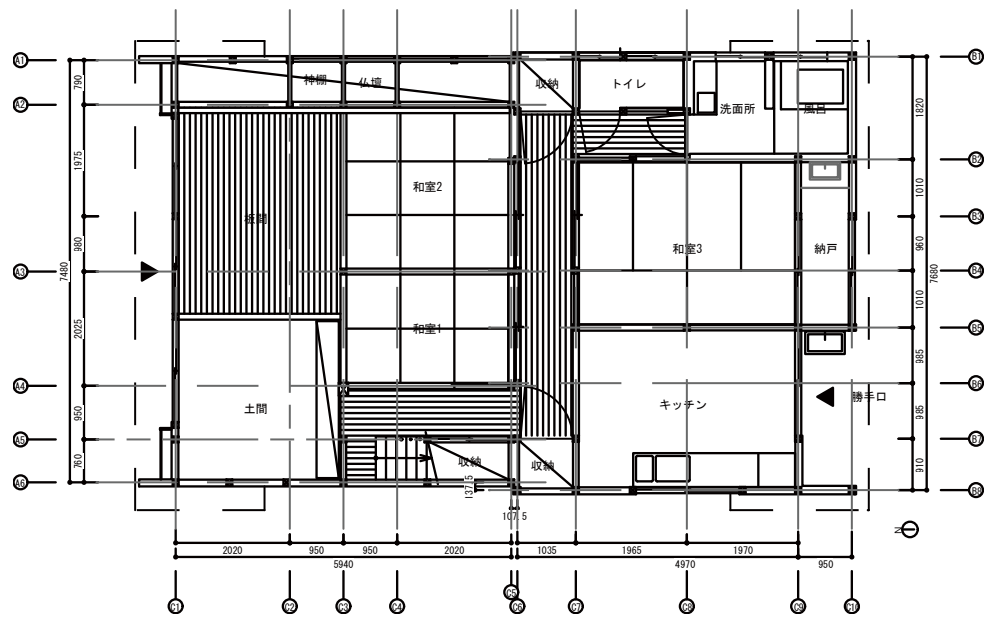


改修後外観

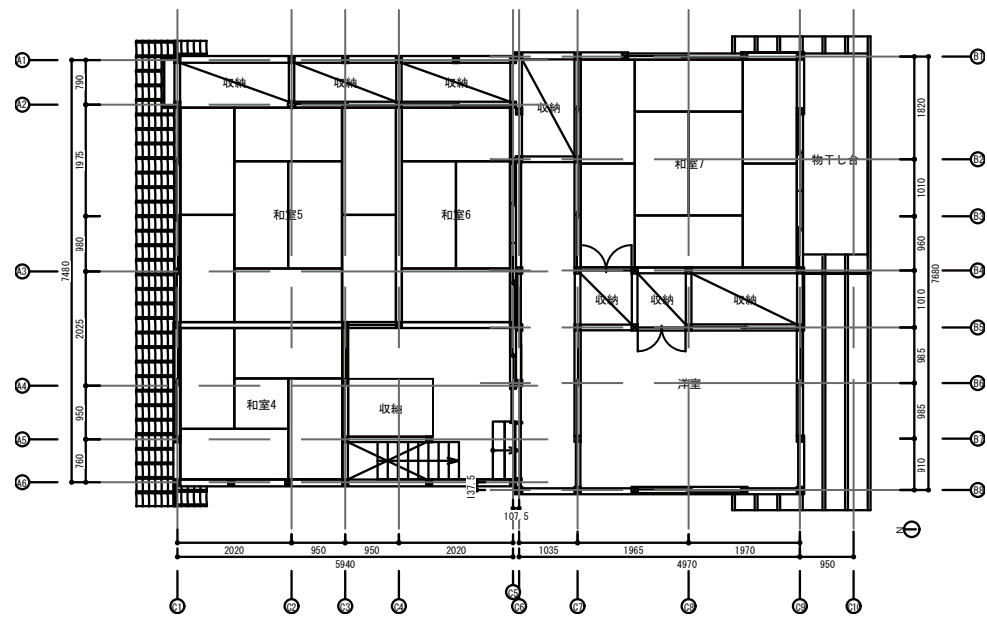
【既存の状況と図面】

本建物は、1階部分がサテライトオフィスとして活用されており、旧棟(南側部分) 東側には閉ざされた半間の空間が存在していた。2階部分には所有者の持ち物が多く残され、物置としての利用が中心となっていた。また、ファサードは通りに対して閉鎖的な印象を持ち、伝統的な佇まいとの調和が図られていなかった。

旧棟と新棟(北側半分) の構造形式に違いがあった。改修計画においては、こうした特徴にも意識を向ける必要がある。



改修前 1階平面図



2階平面図



改修前 外観



改修前 2階



改修前 1階



改修前 2階



改修前 2階



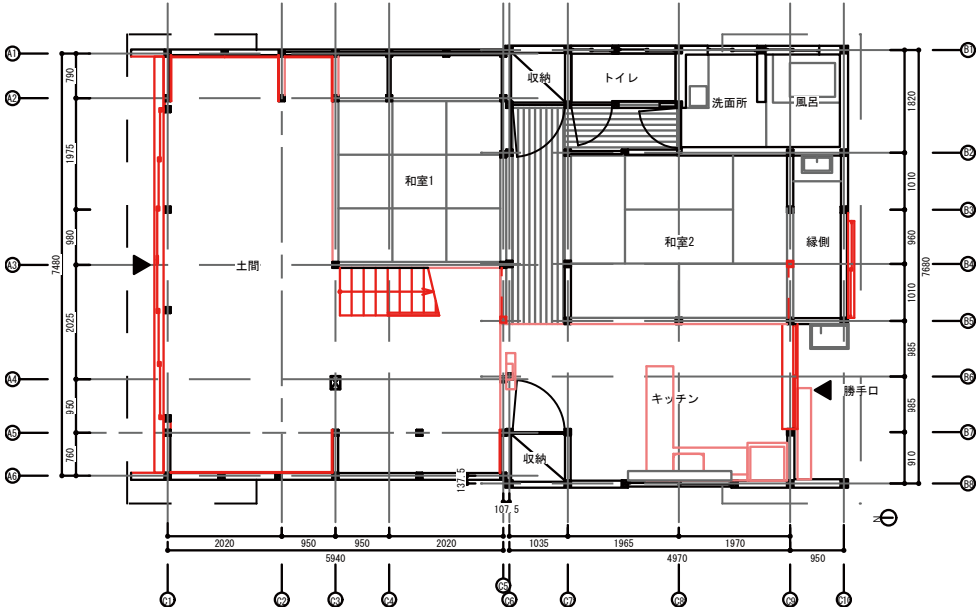
改修前 1階



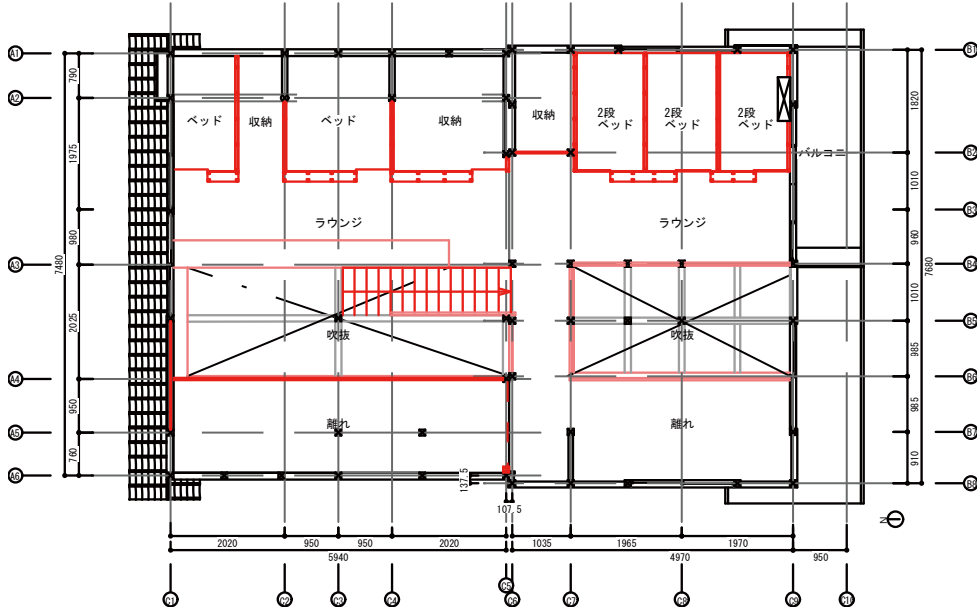
改修前 1階

【改修計画の検討】

本改修計画では、1階を地域の活動がより活発に行われる場とするとともに、地域に開かれた空間とすることとした。
2階については、学生などの合宿時に宿泊、交流できる空間としの機能を持たせることとした。改修計画を進めるにあたり、役場の方々や所有者の方と改修提案の会議を行った。



改修後 1階平面図



2階平面図

サテライト改修提案会議

日時： 2024年10月9日 10時

場所：美波町門前町再生交流オフィス

参加者：清水氏、および近藤氏（所有者）

勘波瀬氏（美波町役場）

曾我部先生、長谷川氏（神奈川大学）

阿部、吉田（神奈川大学 学生）

最終案を説明し、役場の職員である勘場瀬氏、そして所有者である清水氏、および近藤氏の了解が得られた。

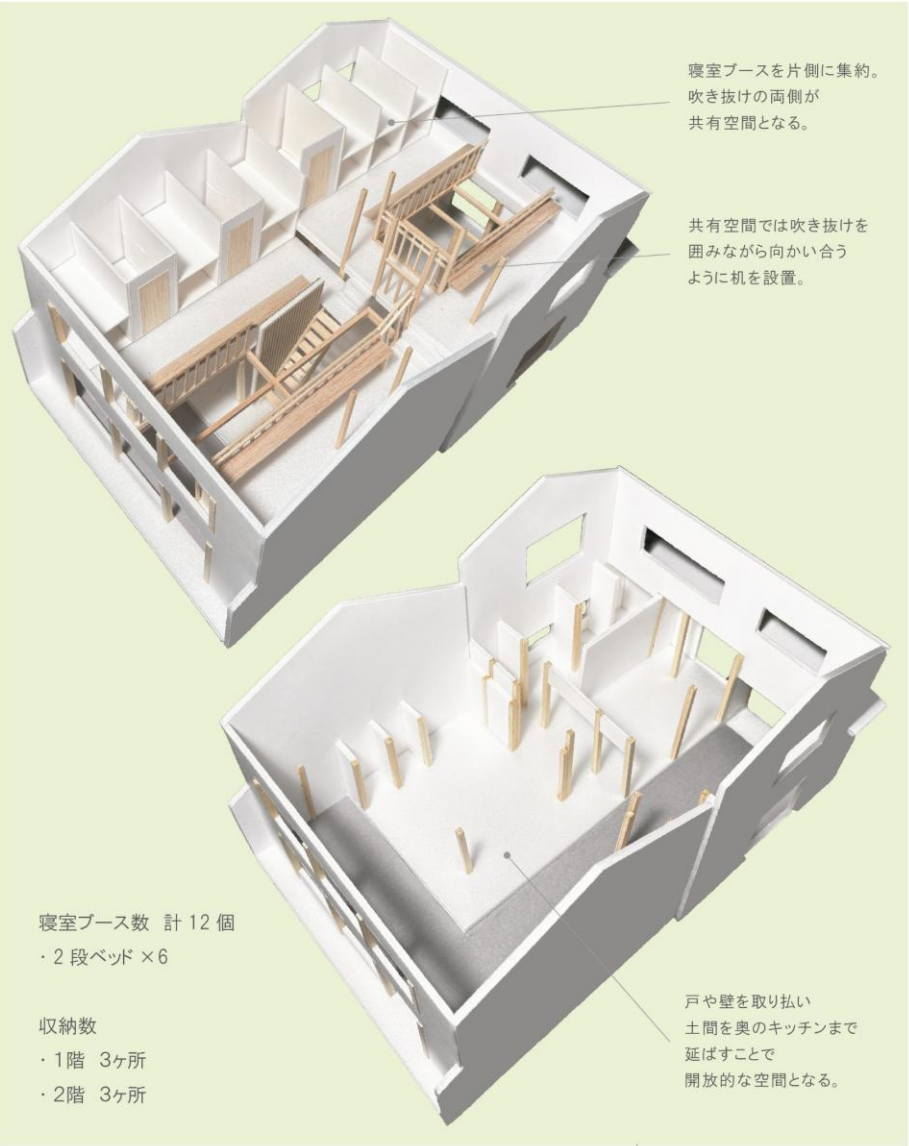
会議直後から、片付けを開始した。



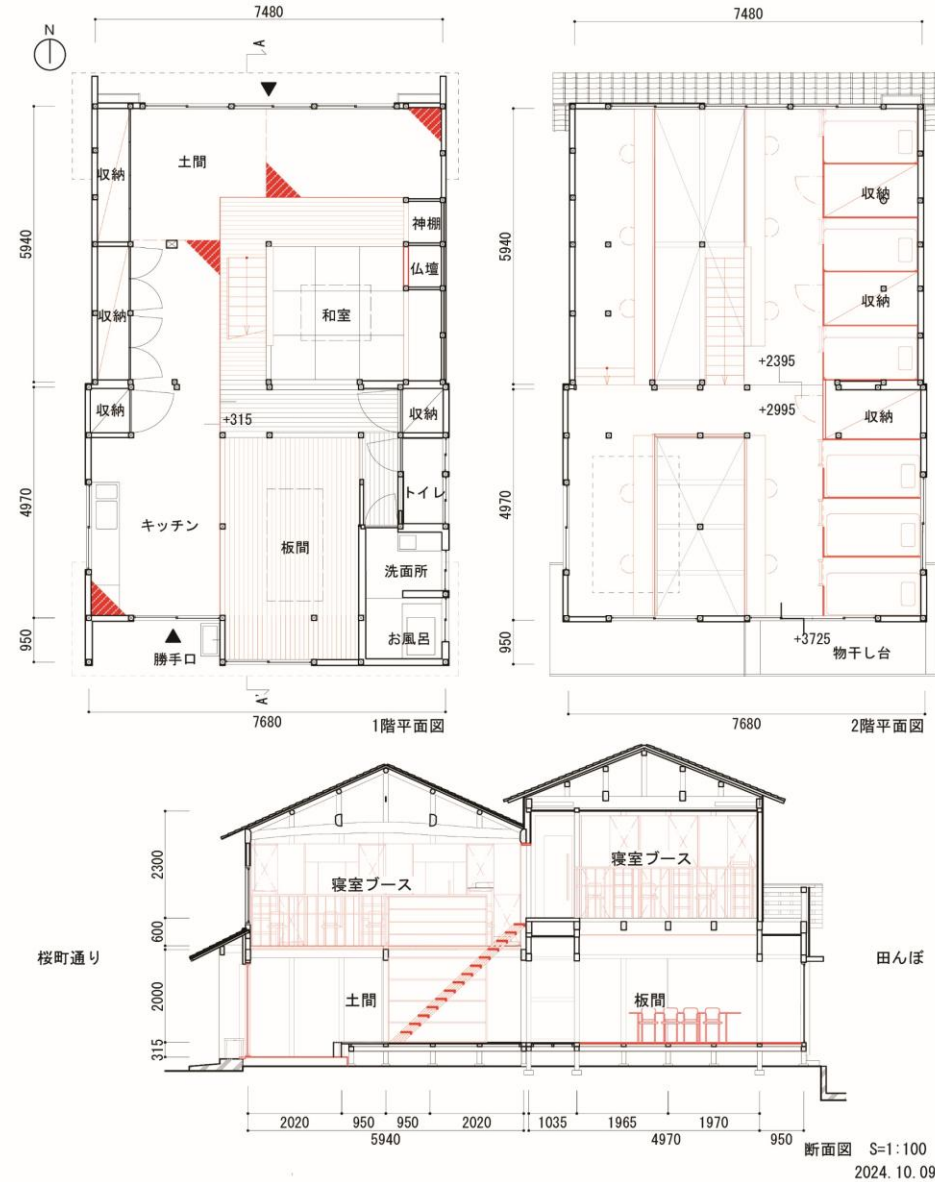
最終提案模型

美波町再生オフィス改修

片側ベッド集約案



- 1 階は土間を広げ、奥のキッチンまで通すことで吹き抜けと連動する空間となる。
- 2 階には大きな吹き抜けを通すことで視線と風が抜け、階段を上ると田んぼ側の開口が広がる。

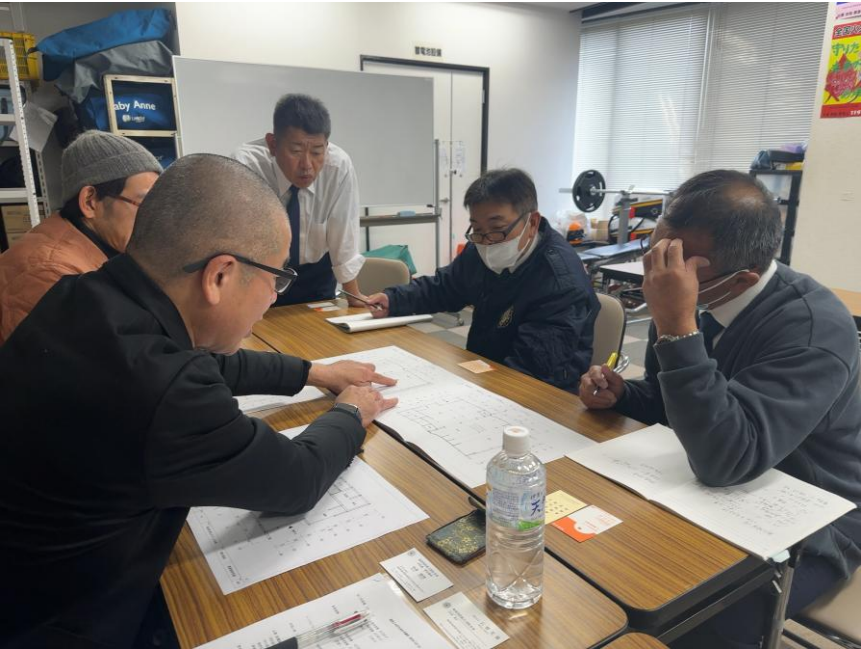


消防設備の打ち合わせ

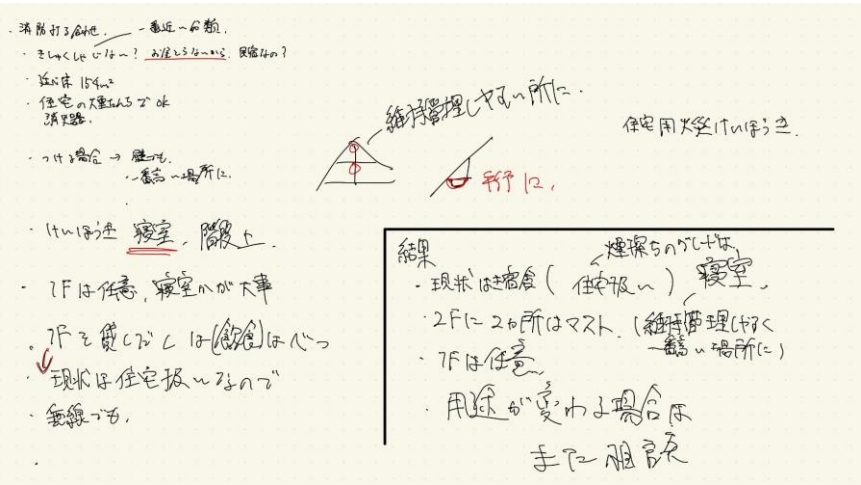
日時：2024年12月13日 13時
場所：海部消防組合消防本部
参加者：石野氏、中井氏（消防本部）
曾我部先生、長谷川氏（神奈川大学）
鈴木（神奈川大学 学生）

会議の内容

- 〈本施設の消防設備設置義務〉
- ・用途は寄宿舍扱いである。
 - ・本施設は宿泊料金を徴収しないため、宿泊施設としての消防設備の設置義務はない。
 - ・計画している用途では住宅用火災警報器の設置により対応可能。
- 〈住宅用火災警報器の設置条件〉
- ・設置位置：維持管理が可能な範囲で最も高い位置。
 - ・取り付け方法：警報器が正しく機能するよう水平に取り付ける。
 - ・2階には旧棟、新棟それぞれ1台ずつ設置。
- 〈将来の用途変更時の注意点〉
- ・用途変更時：関係機関と協議の上、適切な対応が求められる。
 - ・特に1階部分を飲食店等に転用する場合、用途変更の手続きが必要である。



消防署にて打ち合わせ



打ち合わせのメモ

構造の確認と補強の検討

日時： 2024年12月16日 10時

場所： 美波町門前町再生交流オフィス

参加者： 野村氏（金箱建築構造設計事務所）

曾我部先生、丸山氏、長谷川氏（神奈川大学）

鈴木（神奈川大学 学生）

会議の内容

〈問題点〉

- ・ 1階・2階ともに壁量が不足している。
- ・ 新棟と旧棟が構造的に接続されていない。

〈改善策〉

- ・ 新棟と旧棟を構造的に接続し、一体化する必要がある。
- ・ 一定量の壁量を確保する必要がある。
- ・ 場合によっては柱、梁を新設して対応する。



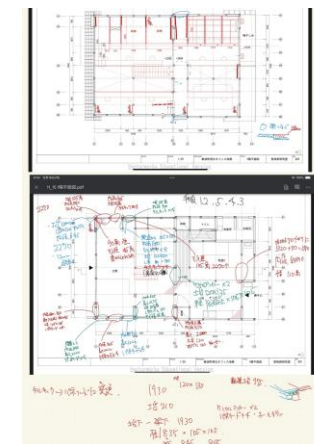
構造補強の打ち合わせ



各補強場所のチェック



各補強場所のチェック



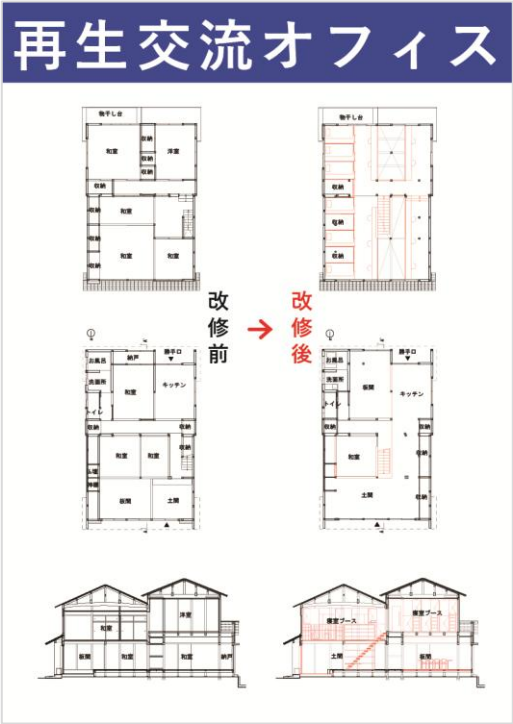
補強場所のメモ

【改修工事中的見える化】

お知らせ看板の掲示

旧清水家住宅の改修工事の周知を目的として、お知らせ看板を設置した。看板は通りから視認しやすい建物入口の窓に掲示し、改修工事の進捗状況が随時確認できるよう工夫をした。

看板の仕様はA3サイズ3枚を横に連結した形式とし、改修工事と連動して右側の写真を差し替えることで、工事の進捗や現状を視覚的に伝えられる構成とした。



お知らせ看板



お知らせ看板の設置

【解体作業の概要】 2024年10月8日～11月16日

本改修における解体作業は、業者に依頼せず、自主施工により実施した。

1階では、北側の土間を拡張するために床部分を解体し、建具を取り外した。2階では、各部屋を区切っていた壁や仕切りを撤去することで、一つの大きな空間へと再構成した。また、北側の天井を撤去することで、構造架構を視認できるようにし、開放的な空間を創出した。



解体作業中 1階



解体作業中 1階



解体作業中 2階



解体作業中 2階

【改修工事の概要】 2024年11月4日～1月27日

解体作業と同様に、施工についても可能な限り自主施工により実施した。主な作業内容は、土間打設、2階の床貼り、および2階宿泊ブースの製作である。

土間打設においては、解体作業で発生した砕石を活用し、地盤のレベル調整を行った後、左官業者によるコンクリート打設の際に資材の運搬を担当した。

2階の床貼りでは、既存の床板の上に新たに合板を施工するにあたり、接合部が梁の位置に適切に重なるよう調整を行った。

2階の宿泊ブースの製作では、水平および垂直を意識しながら軸組を組み立て、一方の側に合板を貼ることで、それぞれの個室を仕切る構造とした。

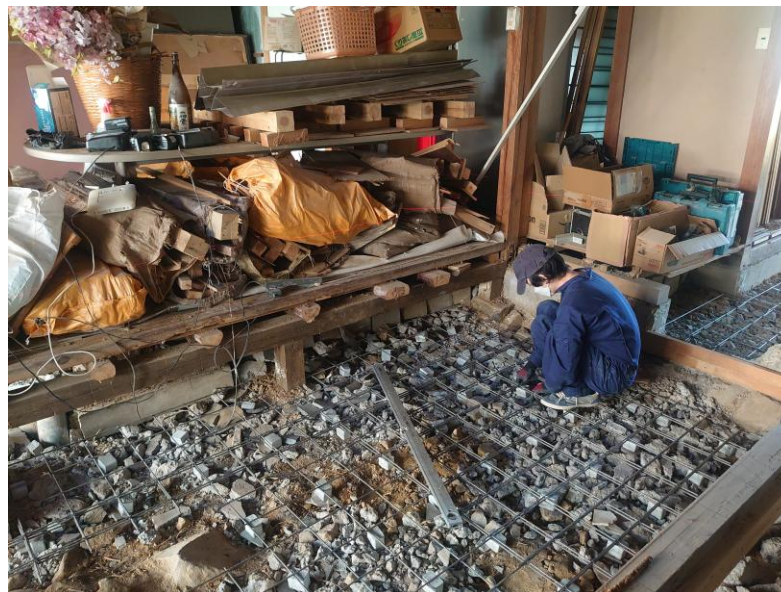
玄関は新しく前面開口可能なガラス張りの建具を検討し、建具の製作、運搬、設置工事は建具業者が行った。



2階床貼り



宿泊ブース製作



ワイヤーメッシュの配置



土間施工

竣工 2025年2月18日



改修後 外観



改修後 2階



改修後 2階



改修後 1階



改修後 1階

【改修後活用の実施】 2025年2月14日～2月21日

改修後活用として、改修工事の際に保管しておいた清水家の生活用品等を活用し、門前町の昔の暮らしを伝えるインスタレーションを作成した。

展示場所は1階の土間・玄関周り、既存階段部分、1階和室、キッチン、2階離れ、宿泊ブースの棚である。

2025年2月14日から21日を展覧会準備期間とし、2月22日から24日の3日間で開催した展覧会は合計で100人以上の来場があった。来場者にはアンケートに協力していただき、3月の展覧会に向けての改善や改良を行うことにした。



展示 1階和室



展示 2階離れ



展覧会の様子 1階土間



展覧会の様子 2階ラウンジ

【改修後活用に見える化】

掲示ポスターの検討

旧清水家住宅での展覧会の開催に向け、ポスターの内容について検討した。複数のタイトル案とデザイン案を提案し、ポスターが目に残るもの、展覧会の内容が伝わりやすいかどうかにも考慮し調節した。

完成したポスターは、展覧会期間前より門前町周辺の店舗や施設に掲示していただき、広報活動を行った。

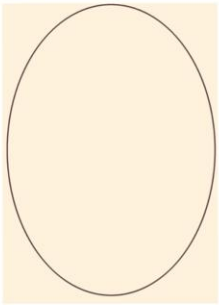
■ 展示ポスターについて

・ タイトル案

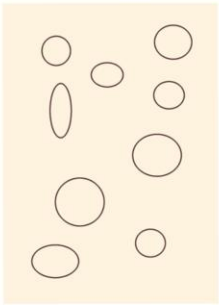
- ① 門前町の暮らしと記憶
- ② 門前町のくらしの歴史
- ③ 暮らしの記録帳
- ④ 美波町の轍

轍（わだち）一車が道路にのこす車輪の跡
元々参道だったっていうのと、昔の人々が残した
過去の品々を飾らというテーマと合わせて

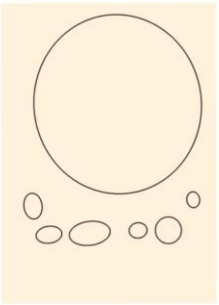
・ ビジュアル



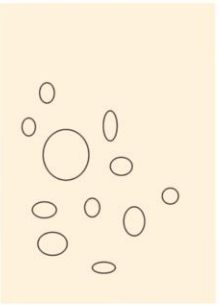
一枚写真



全体コラージュ



大きめの写真と
小さめの写真



一部にコラージュ

チラシの検討

〈例1〉写真1枚 ※タイトル③



〈例2〉2階の棚をメインにする ※タイトル④



〈例3〉コラージュ ※タイトル①



(参考) YOKO Festival <https://yoko-n.jp/yokofestival/>

〈例4〉コラージュ ※タイトル②



(参考) いにしよ https://www.gre.kogawa-jp.jp/komatsu/seisakuishi/exhib/r4_03_sensuigallery.html

展覧会チラシ案

門前町のくらしと記憶

プレ 展覧会
2025. 2.22 (土) - 2.24 (月・祝)
10:00 - 17:00

本 展覧会
2025. 3.8 (土) - 3.16 (日)
13:00 - 17:00 (平日)
10:00 - 17:00 (土 日)

会場：美波町 門前町再生交流オフィス (旧清水家住宅)

セルフビルドで改修した旧清水家住宅にて、
かつての暮らしの道具などを紹介しています。
プレ展覧会に会場した方々から得られた情報などを元に、
本展覧会の内容をまとめます。

※神奈川大学の学生が改修工事、展示計画を行っています。
本研究及び活動費用の一部は、公益財団法人乃村文化財団の助成金および
「みなみ阿波」若者創生協議会の事業負担金によるものです。

完成した掲示ポスター

店舗等でのポスター掲示の様子



日和佐日和



ファミリーマート日和佐店



日和佐駅 観光案内所



日和佐公民館

展覧会でのアンケート調査

展覧会アンケート

展覧会の来場者に対し、満足度や意見を把握し、展示内容の改善点や次回以降の展覧会の参考資料とするためアンケートを実施。展覧会に対する来場者の評価を分析する。

2025 年2月22日から24日の3日間で開催した展覧会には、合計で100名以上の方々が来場された。アンケートの内容の声を集めたアンケートから、次回の展覧会に活用できる貴重な意見や感想が得られた。

アンケートの内容

〈ご来場者様について〉

- ・3日間の展覧会には、合計78名のアンケート回答があった。
- ・男性35名、女性43名で、特に30代から60代以上の方々が中心となり、来場者の約3割が美波町内、約4割が徳島県内、さらには四国内や他県からの来場者も見られた。
- ・一人で来場他にも、配偶者や友人、親子連れでの来場も見られた。
- ・最も多い来場のきっかけは「通りがかり」で、全体の約8割を占めた。その他には、「お店のチラシ」「口コミ」、Instagram などSNS も影響を与えた。
- ・交通手段については、自動車での来場が主流となる中、美波町内の方を中心に徒歩で訪れた方も確認した。

〈展示について〉

- ・「とても良い」と評価した**回答が約6割**を占めた。
- ・来場者が**印象深かった展示場所**として、1階の和室や2階の様々な展示が挙げられ、布の展示や食器の棚、機械の棚の展示も注目された。

〈感想について〉

- ・来場者からは、展示や建物に対して多くの感想が寄せられた。「地元に住っていると当たり前になってしまう風景を、外からの目線で素敵に価値を再発見していただけてとても嬉しくなりました。」「昔、祖父母が使っていた物や、実家にあった道具が、幼い頃を思い出させてくれました。」という声もあり、**展示や古民家を通じて過去を振り返るきっかけとなった。**
- ・「家屋の造りを間近で見ることができ、大変興味深かったです。」「元々あった構造を活かした展示が工夫して行われており、非常に見ごたえがあった」と**古民家への関心も高かった。**

〈次回の展覧会について〉

- ・約6割の方が「3月もまた来たい」「やっていれば来たい」「通ったら来たい」と回答があった。このことから、**地域文化と展覧会の魅力が来場者に伝わったことがわかる。**
- ・今回の展覧会は、**来場者に地域文化の価値を再発見**させるとともに、**多くの方々に好評**をいただいた。今回のアンケート結果を踏まえ、次回の展覧会の準備を進める。

〈展覧会を開催して〉

- ・「時代の変遷による家の違い(増改築)があってよい懐かしいものが並んでいた」「時代を感じることができ、物の価値を改めて見直すきっかけになりました」との声が寄せられ、**展示が古民家という空間を通じて地域のくらしの変遷を体感する場となった。**
- ・「家屋の造りを間近で見ることができ、また詳しいお話を聞くことができて大変興味深かったです」「貴重な資料で大変興味深かったです」という声から、**古民家という空間と展示物が一体となり、地域のくらしの記憶を伝える場となった。**

門前町のくらしと記憶 プレ展覧会 来場者アンケート	
2025/2/22,23,24	
本日は、ご来場いただき誠にありがとうございます。よろしければ、以下のアンケートにご協力お願いいたします。	
ご来場様について	
性別	☐ 男性 ☐ 女性 ☐ 無回答
年齢	☐ 10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代以上
お住まいの地域	☐ 美波町内 ☐ 徳島県内 ☐ 四国内 ☐ その他の地域 ()
展覧会について	
1. ご来場のきっかけ	
☐ お店のチラシ ☐ 知人 ☐ 口コミ ☐ 通りがかって ☐ その他 ()	
2. ご来場いただいたお連れ様	
☐ 一人で来た ☐ 友人 ☐ 配偶者 ☐ 親子 ☐ 祖父母 ☐ 知人 ☐ その他 () ※複数回答可	
3. 展覧会の内容について	
☐ とても良い ☐ 良い ☐ 普通 ☐ やや悪い ☐ 非常に悪い ☐ わからない	
4. 印象に残った展示場所	
☐ ① 写真と押し花 1階 玄関・土間 ☐ ④ 蚊帳・掃除機など 2階 様々な展示 ☐ ② 木の上のおちよこ・置物 1階 奥の和室 ☐ ⑤ 布と着物 2階 キッチン上展示 ☐ ③ 1階 キッチン ☐ ⑥ 食器・陶器の棚 ☐ ⑦ 置物・機械の棚 2階 奥の棚 2階 手前の棚	
5. 会場までの主要な交通手段	
☐ 徒歩 ☐ 自転車 ☐ 車 ☐ 電車 ☐ バス ☐ その他	
6. 3月開催の本展覧会について	
☐ 3月もまた来たい ☐ やってあげれば来たい ☐ 通ったら来たい ☐ 都合が合えば来たい ☐ わからない ☐ もう来ない	
展示品としてご提供いただける家財や古写真がありましたら、お名前・ご連絡先・物品の詳細についてお書きください。 	
その他、ご意見やご感想がございましたらご自由にお書きください。 	
ご協力ありがとうございました。	

事業目的の達成状況

- ・ 本研究室では、美波町桜町通りに建つ古民家を改修する計画を進めている。
→**2024年10月9日から始まった改修工事は、2025年2月18日に竣工。**
- ・ 単なる改修に留めず、かつてこの地域で送られていた暮らしの様子を思い出させるような内外装とすることで、より深い地域活性化に繋がると考えている。
→**改修後活用として、改修工事の際に保管しておいた清水家の生活用品等を活用し、門前町の昔の暮らしを伝えるインスタレーションを作成した。**
- ・ 学生たちと地域内外の人たちが協働して進めることで、関係者が多様化し、関係人口の拡大も期待できる。
→**改修中には、地域内の方々との交流や協力をいただけた。**
改修後活用として、展覧会では展示を通して、地域外の方々とも交流することができた。

学生の意見調査

フィールドワークに参加した学生の意見調査

スキーム1（別紙）の設問を元に、フィールドワーク参加者の学生にアンケートを行った。
回答者数は、17名

アンケート設問別結果

設問1：フィールドワークより前に徳島南部地域を訪れた経験について
地域訪問経験なし：76% 訪問経験あり：24%

設問2：今後のフィールドワーク参加意欲について
88%以上の回答者が「**参加したい**」または「**かなり参加したい**」と回答。

設問3：学業外での地域訪問意欲について
個人で訪れたい：88% あまり訪れたくない：12%

設問4：地域への愛着度
全ての学生が「**愛着が湧いた**」または「**かなり湧いた**」と回答

※ 昨年度（2023年度） 以前のフィールドワークに参加した学生のみの質問
回答者数は、8名

設問5：フィールドワーク後の参加

再度参加した：38%

参加していない：62%

設問6：学業外での訪問または関与

学業外で訪問または関与した：13%

訪れても関与もしていない：87%

設問7：具体的な関与の内容（自由回答）

卒業設計の対象敷地として設定し、様々な形で地域の人と関わりを持った。古民家を開放し、地域の方々の居場所となる可能性について検討をした。小学生と仲良くなり、小学生の視点で美波町を知ることができた。
大人では気づきにくいような問題にも気づくことができたのではないかと思う。